

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成23年度 第1回 川西市都市計画審議会専門委員会 (川西市都市計画マスタープラン検討委員会)		
事 務 局 (担 当 課)	都市整備部 まちづくり推進室 都市計画課		
開 催 期 日	平成23年10月26日(水)		
開 催 場 所	川西市役所 4階 庁議室		
出 席 者	委 員 (敬称略)	澤木・松村・岡・水野・山本(信)・駒井・山本(眞)	
	関 係 人		
	事 務 局	竹田・廣瀬・茨木・萩倉・堀内・八尾・池田	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	3名
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
会 議 次 第	議 題 (1) 議案第1号 委員長及び副委員長の選出について (2) 検討事項 都市計画マスタープラン改定の基本的な考え方について		
会 議 結 果	(1) 議案第1号 原案どおり可決されました。 (2) 検討事項 別紙のとおり検討されました。		

第1回川西市都市計画マスタープラン検討委員会 要旨録

日時：平成23年10月26日（水）

午後7：00～9：00

場所：川西市役所4F 庁議室

各委員の都市マス策定に向けた思い

それぞれの地域が支え合うような、関連を持って生活でつなぐようなマスタープランにしていけたらいいなと思った。それぞれの人たちが移動しながら山の物を食べ、都市の物を持って行き、人の交流が市内であるような生活を考えていきたい。

川西市民に親しまれ、将来の目標像を共有でき、市民が主体となれるような都市計画マスタープランにしていきたい。

市域が南北に長いことから、北の人は南のことを知らず、南の人は北のことを知らない。その辺がウィークポイントと感じたので、相互理解ができるような都市計画になればいい。

都市計画マスタープランについては、従前は「都市計画道路をつくるため」とか「施設をつくるため」とか、まちづくりのために都市計画マスタープランに入れるというような開発やモノをつくるために作っているというイメージが強かった。しかし、時代が変わってきているので、今回改定するマスタープランは今までとは違った形のものにするのかなと思った。

一市民、一女性、一おばちゃんとして話ができればいい。

質疑等による確認事項

資料4で「今後の課題」と書いてあるが、これはあくまで市役所で考えている課題ということで、これも含めて見直す。

舎羅林山の開発については、当初の民間開発事業計画に基づいて、主に住居系での用途地域に指定しているが、事業の実施が困難になって休止しているため、新たな民間開発事業者が現れた時に、基本的には住宅系になると思うが用途地域等の見直しも必要になるかと思う。

当初の都市計画マスタープランは、ほとんどハードの右肩上がりの時代で、ハード面しか示されていない。今回改定の都市計画マスタープランは、事務局で考えているのは、財政状況や社会状況からしてもハード面だけでは難しいので、ハードとソフトをミックスしたような形で目指すべき都市づくりの目標を達成できるような内容にしていければと考えている。

議事録は、市民に分かりやすいように要旨録という形で公開を意識して作成する。

委員からの意見・指摘等

<アンケートについて>

アンケートは16歳の子供だけでなく、80歳の高齢者にも幅広くわかりやすい言葉で書いた方がアンケートの回収率も上がったのではないかと。

都市計画マスタープランについて「知らない」という回答が6割というのは、重大なポイントだ。

アンケートについては年齢別・地域別だけでなく、職業別（有職者と無職、家事専業など）での分析も重要。

アンケートの自由意見については、貴重な意見を活用する上でも、ジャンル別に整理してもらえるとありがたい。

年齢構成だが、実際の川西市の年齢構成はどうなっているのか。

北側の山や森林を持っておられる方というのは、もともとの集落の方で、その方たちがどう思っておられるのか意向を聞きたい。

<前回都市マスの評価について>

資料4の「現時点での評価」のところで、もう少し詳細的なデータをつけた評価というか達成事項というか、肉付けをした「現行の都市計画マスタープランの評価」という資料を作成する。

課題評価の総括の「現時点での評価」を数字や記号などでまとめられないか。

<課題の整理について>

都市の概況などを書いていながら、抽出が何もない。全体的な川西の課題というのがあるにもかかわらず、それが反映されていないので、一番ベースとなる川西の誰もが感じている課題のようなものは整理して載せるべき。

「社会潮流の変化」がどうして「基本理念」に結びつくのかわからない。

<都市マスの方向性について>

もっと「川西らしさ」や「川西のこういう特徴を伸ばしましょう」という内容・表現にすべき。この10年のどこに山を持っていきポイントを持っていくか、川西はよそに先駆けてここに着目しているというようなものがほしい。

川西市の中でオールドニュータウンが問題であると言いながら、田んぼを埋めて住宅ができたり、あるいは大きな家を細切れにして家が建つ。都市計画マスタープランの都市計画で何ができるかと

いうとおそらく何もできないと思うが、そういったことに規制をかけたり、できないようにするということは少なくとも可能である。思い切って規制することも一つの考え方ではないだろうか。

都市計画マスタープランでは都市施設との兼ね合いで、想定される関連施設としてハコモノがたくさん出てくるが、これはそろそろやめておいた方がいいのではないかと。都市計画で都市施設をつくるという都市マスについては冷静に考える必要がある。

手に取りやすい、読みやすい、川西らしいものにするために、最初にビジョン的なものがあり、なぜこういうものが出来たかという理由が後付けになってもいいのではないかと思う。

「都市づくりの目標」全てに「市民参画」から線が引いてあるが、重みを持って引いてあるようには見えない。「市民参画による活力あるまちづくりの推進」に対して「都市づくりの目標」の～のすべてから線を引いているというのは、何を想定して引いてあるのかを考えないと、その前にある「都市づくりの基本理念」は書けない。一方で都市マスは市民の活動の邪魔をしない程度であればいいのではないかとというような考え方でいく低いハードルもある。どちらのハードルを越えるのか。事務局をはじめ川西市役所で考えてほしい。

都市計画的な事務的なものにするのか、市民が一緒になって取り組みを含めたところをふくらませたプランにするのか議論すればいい。

市民の方々に協力してもらわないとどうしようもないという状況もあるし、実際に川西の市民の方たちはいろんな活動もしているが、そのところがマスタープランの見直しに入っていない。

総合計画と同時進行しているが、総合計画の方はもっと市民が主役でプランを作っていると思う。そういったものと連動するような都市計画マスタープランであるべき。目標などに、もっと川西らしい特徴が出てくる言葉を総合計画の進捗も見ながら入れていくべき。

30年、50年後の都市像をイメージしながら、この10年をどうするかという作り方すべき。

課題を踏まえて基本理念として、このマスタープランは何をするかという一番中心となるものが、その次に来るはずであるが、それがなくていきなり都市づくりの目標ということになってしまっている。

市民参画あるいは市民が築き上げてきた川西の魅力や良さをこれからどう伸ばしていくか、といったことを主体的に述べていけばよい。

<市民意見の抽出について>

もっと活発にこのアンケートの答えはこうであるとか、極端に言えば、今日やった内容はこうであったとかを市民に言わなければならないのではないかと。

できるだけ多くの意見がもらえるような工夫が必要だ。

総合計画の方で、地域別懇談会が、14地域で3回実施されるが、そういう場における地元の方の意見をここに出してもらって、何かあれば要望を聞きに行くといったことも含めて進めていけたらいいかと思う。いずれにせよ総合計画の方は参加型で、市民の声をより強く意識したやり方で検討作業が進むので、本委員会からも何か聞きたいことを投げて一緒に聞くなど、そのあたりの連携があるといいと思う。

平行して作業を進めている総合計画の地域懇談会やワークショップの意見をなるべく反映する。

< 次回の会議について >

資料をできるだけ早く事前配付し、事前に意見を聞いてもらうか、あるいは策定委員会を11月下旬か12月上旬にもう1回追加して開くのがいいと思う。